

第170回Brown Bag Lunch Seminar 報告書

テーマ：集積型産業発展—アジアの経験とアフリカでの支援策—

講師：園部 哲史/FASID国際開発研究センター主任研究員

日時：1月17日（木）開場12:00 講演 12:30-14:00

研究の狙い

途上国における貧困からの本格的な脱出には、労働集約的産業の発展が不可欠である。途上国では産業の発展よりもまずは食糧問題を解決することが重要との見方もある。しかしそれだけでは雇用を生み出すことは出来ず、本格的に脱出するには産業の発展が不可欠である。そして産業発展を考える上で、グローバル化の時代は産業集積の時代であり、多くの国々において産業が集積を形成しながら育っているため、産業集積を考えることが不可欠である。産業集積の研究に際し、もともとの目的は、市場の失敗を見極め、産業支援政策の理論的基礎を提示する事であったが、今はどんなことをやったら有効な支援になるかは見通しがついているため、現在の狙いは、実際にそれを実行し、支援政策の効果の実証をし、問題点があれば改善しながらよりよい支援政策を作っていくことにある。

産業集積について

産業集積とは、“同一または関連する製品を生産する多数の企業が密集している状況”、つまり、ある場所に同じようなものを作る企業が集まっている状態の事である。この産業集積には、Marshallによると3つのメリットがある。それは、**情報のスピルオーバー**～**模倣**；人がたくさん集まって様々な人が真似をし、それが広がっていく事、**特殊技能の労働市場の発達**；人が集まる場所には、特殊な技能の人も集まりやすい事、そして**補助産業の発達（企業間分業の発達）**；特殊な工程に特化した人が集まる事により、自分の足りないところは他の人の助けによって補完することが出来る事、である。こういった産業の集積が、途上国の産業発展にとっては重要である。

産業の集積によって、産業がどのように発展していくかであるが、発展するプロセスには**始発期、量的拡大期、質的向上期**の3つの段階がある。

始発期は、先進国の模倣から始まる。この段階だと、周りにまだ生産する技術を持った人がいないので競争相手がいない、先進国からの高価な輸入品と違って安い価格で提供する事により低所得層の間で市場を形成し、高い収益性を得られる。

そうなってくると、自分もやりたい、と言う人が出てくる。ここで次の**量的段階期**になってくる。始発期の先駆者の元で技術を習得した労働者が、追随企業となって出てき、そういった人の数が増えてきて生産量が増える。そして材料を持ち込んでくる人、商品を買って、ほかの所に売り込みに行く人などが出てきて、産業が発達していく。

しかし、所詮は安物であり、都会の人が買うような高品質なものではなく、市場は貧困層の人が安く買うためのものに限られる。その中で生産者が増えて同じようなもの

が流通していくと、値崩れが起こり、収益性が悪くなる。さらに産業を発展させるためには、ほかの人と違うもの、いいものを作らなければならない。そこで**質的向上**が必要となってくる。質的向上の段階には、商人や、技術者といった、色々な人材が集まり、彼らの知識やノウハウを合体させることによって、新しいこと、革新、新結合を行う事が重要になってくる。アフリカではこの段階で止まってしまう。

そしてさらに質的向上の段階で重要な事は、流通の促進である。途上国にて品質の向上をしても、いい物は輸入品であるという偏見があって高い値段では売れないため、そういった製品の流通を促進させる必要が出てくる。例えば松下幸之助は、長持ちする乾電池を製作し、最初全く売れなかったが、それを無料で電気店においてもらって試しに使ってもらい、気に入ったら買ってもらうという形をとり、それが成功し売れてきた。さらにその後、模倣品対策のためナショナルというブランドを作って松下のものしか売らない専門代理店を作ったり、自社の技術を他に漏れないようにしたりという工夫をしていった。このように、質的向上期以降の段階では、生産の組織の仕方など、連鎖的に様々な分野での革新が必要となり、それを成功させるには、教育水準が高い、色々な人材が必要となってくる。アフリカでは、人材のレベルが低いため、これが難しくなっている。

アフリカにおける産業集積支援

アフリカでは「質的向上」に移行するための能力（経営者能力、商人・技術者・研究者・技能工のような人的資源の活用能力、学習能力、環境）が欠如している。また、多くの途上国では、潜在的な技術・経営・流通の「模倣的革新力」の不足を援助で補うことが当面の課題であり、その際、「身の丈にあった」多面的革新を支援しなければならない。なお、外資導入によって、一気に質的紺増の段階にいけないかと言う意見もあるが、人的資源の開発は不可欠であり、これを無視すると、その国の人による産業発展は不可能なため、外資導入が本格的な産業発展に寄与するとすれば、それは質的向上に入ってからのものであり、まずはそのレベルに引き上げる必要がある。また、質的向上期に入れない産業では、採算性が低下しているので、多くの企業が品質改善の必要性を痛感している。さらに、品質改善が多方面の改善を伴う多面的革新でなければならないことも、漠然と感じている経営者は少なくない。問題は、どこから手をつければよいか道筋がわかっていないところにある。そういったタイミングを見計らって技術力、経営管理力、販売力を強化すれば、アフリカでも多面的革新が始まる。よって援助のタイミングとしては、多面的革新が始まってから、低金利ローンの供与やインフラ整備に注力するのが、アフリカにおける産業発展の効果的な支援策である。

ケーススタディ；クマシの自動車修理・金属加工集積

クマシは、1930年代に、クマシ市の端の弾薬庫（Magazine）周辺にできた自動車修理工と鍛冶屋、金細工師などの集積地。植民地軍が地元の人に自動車修理を教え、その

後自動車修理を覚えた人達が弟子に教えるといった形で増えてきた。現在、1万社以上、10万人ほどの徒弟や労働者が、90万平米（甲子園球場22個分）の土地で活動している。この20年ほどの間に、企業数は劇的に増大し、面積は3倍ほどに拡大した。大多数の企業（親方）は自動車修理工で、その他の企業も大半は自動車の修理部品の製造など、何らかの形で自動車修理に関わっている。そこでは、集積の経済（メリット）として挙げられてきたものがすべてそろっており、専門特化、分業は徹底している。それが集積地全体の生産性を高めている。その中で、経営者の間では、製品やサービスの品質を向上させるためには、機械設備への投資が不可欠であるという認識は強い。投資資金を得るために無駄を省いて生産効率を高める他ない。そのために経営を強化し、顧客のニーズを理解しなければならないが、経営者の大半はその手段がわからずにいる。そういった人々は知識を渴望するようになっており、そこで世銀と共に3週に亘ってトレーニングを行った。

内容は、**第1週：企業経営全般の概論とマーケティング**；企業とは何かから始まり、お客さんが来るのを待っているのではなく、お客さんが何を必要としているのかを知り、それによって計画を立てていくマーケティングやビジネスプランニングについて。**第2週：生産管理と品質管理（5S）**。**第3週：簿記と原価計算**；でたらめでやるのではなく、記録をつけ、いくらかかるか調べることの重要性について。結果、儲かっていると思っていた事業が実は赤字であることが分かるなど、原価計算の重要性が認識された。

このトレーニングの最中、モチベーションの高さは最後まで衰えなかった。出席率は平均14.2日/15日（約95%）。非常に活発な討論への参加（この際のコンサルタントがたまたまガーナの方で、現地の言葉で議論が行われ、理解が深まったということもある）が見られた。また、コンサルタントが企業を訪問してアドバイスする On-site coaching も好評だった。結果、知識の重要性が認識されるようになり、意識改革ができた。

結論

1. アフリカでも産業集積があり、それらは量的拡大までは達成して雇用や所得の創出に貢献している。
2. いっそうの発展には質的向上を遂げなければならないが、そのために必要な多面的革新を起こす力が欠けているケースが多い。
3. 技術面、販売面、経営管理面のレベルアップが必要であり、とくに経営管理やマーケティングの能力に関しては助けてやらないと改善不可能と思われる。
4. これらの主張を実証するとともに、能力強化に効果的なトレーニング方法を構築することを当面は目指したい。
5. 長期的には、販売・経営だけでなく技術面の強化も図り、さらに資金市場へのアクセス改善とトレーニングのタイアップを図る予定である。